

2019 年前期、三回にわたり日本語教育の教壇実習授業をさせてもらった。日本語の教え方を二年間学んできたが、今回の実習では実際に外国人学習者に初めて教えたことで、今まで気づかなかった自分の至らない点がいくつか見えてきた。

今回実際に日本語を教えたときに感じたのは「言葉で説明しようとしすぎる傾向にある」ことだ。「教科書の〇〇ページを開いてください」という指示一つとってみても、そのあと、私は教科書をもって説明することはなく、ただ言葉だけだった。今回は幸いにも学習者が二人とも中級以上の日本語能力だったので、かろうじて伝わるが多かった。しかし、長い文章で説明するよりも、見せることができるものは見せてみたり、短い文章で伝えたほうがはるかに伝わりやすいが多かった。私は最初の授業での計画では、すべて言葉で伝えようとしていた。それしか思いつかなかった。しかし、先生からのアドバイスと一緒に授業をした実習生たちの授業計画、ほかのグループの実習生たちがやっている授業を見たときに、たくさんの刺激を受けることができた。実際にほかのグループが表にまとめたり、写真をたくさん使ったり、演技をして授業を進めている様子を見て、学習者は理解している様子だった。それを見て、私の最初の授業計画を振り返ると、固定概念に捉われすぎているように感じた。私はたくさん教える方法を学んだはずなのに、ずっと一つの方法ばかり考えていた。私はそのことに気づき、固定概念を捨てて周りの人たちの技を吸収することで次の授業をよりよいものにしようと努力した。実際に教材の種類を増やしたり、実習前の練習回数を増やすことで少しは改善されたと思うが、よい授業であるかどうかは未だにわからない。後期の実習では自分も学習者も満足できる授業を行いたい。

また、私は声が思っているよりも出ていないことに気付いた。人前に立つと緊張してしまい、いつもよりも小さな声になってしまうことは分かっていた。だが、その予想よりも、ずっと声が小さかった。なぜだろうと授業の時のことを振り返った。思い出したのは、「他のことに集中しすぎて、声を出すことに意識を向けていなかった」という点である。三回目の授業でようやく、もう少し大きな声を出そうとした。しかし、いつもより少し大きな声が出せたのは最初だけで、途中からはいつも通りの声量だった。それに加えて、教材を出す順番や、黒板の整理の仕方、繰り返し練習する箇所などたくさんのことに気を付けなければいけないことを知った。私は同時に色々なことに気を配るのが苦手だということが分かったので、徐々に同時進行で物事をすすめられるようになりたいと思った。

授業の準備ではたくさんの苦労があった。一番大変だったのは「学習者がする質問を予測しながら授業を計画した」ことだった。今回私たちは発音とロールプレイを教えたが、どこで間違えるのかが全く分からなかった。私たちがここは間違えそうだなと思って準備しても学習者はちゃんと正解したり、逆に私たちがここでは間違えないだろうと思っていたところで間違えたり、思いがけない質問をされたこともある。間違えないだろうと思っていたところで間違えたときは、すぐに間違いを正すことができるが多かった。例え

ば三回目の実習で発音を教えたときに、CD から流れてくる単語でアクセントがついているかついていないかというときに「アクセントの位置も考えるべきか」という点で悩んでいたがそれは考えなくていいと伝えたら、この問題は解決された。しかし、「違いがはっきりしていない曖昧な言葉の違いを説明」しなければいけないときにすごく困った。このことからもっと学習者に寄り添った考えが必要だと思った。この考え方ができれば、もう少し質問を予測してちゃんと対応できたのではないかと考えた。実際に一回目の授業で教えたロールプレイで、たくさん間違いには気付いたものの準備不足で教えきれない部分が多かった。しかし回を重ねるごとに、前回受けた指摘を反映させることはもちろん、学習者がここで悩むだろうというポイントではどのように説明したらわかってもらえるのか、この説明ではこういう質問がきそうだなと、少しずつだが考えていくようになった。このように学習者に寄り添う気持ちを忘れずに授業をしていきたい。

今回の実習で、私に最も足りないのは「伝えようとする意識がまだ十分ではない」ことだと感じた。今回の実習では学習者の日本語の能力が高いということもあり、言葉で伝わるだろうと考えがどこかにあったように思う。それは大きな間違いで、私が伝えようとしなければ学習者には伝わらないし、学習者も理解しようという気持ちが薄れるだろう。上述したように、簡単な言葉での説明や教材など様々なものを用いて学習者に伝えるべきなのである。また、教材の出し方や板書の仕方、声の大きさなども重要だと今回感じた。これらはわかりやすく伝えようという意味がなければ、絶対に気を付けないことだと思う。私はすべてに注意しながら授業を進めることは今の時点では不可能であると理解しているが、すべてを意識する努力は忘れないようにしたい。後期の実習では、今回とは違い、場所も学習者の人数も違う。今回よりも授業をするのは難しいと思うが、今回の失敗を無駄にしないように頑張りたい。